

東シナ海に浮かぶ島々を巡る

大小150もの島から構成されている五島列島に含まれる。江戸時代には、大村藩など藩をあげて捕鯨を支援した。近代捕鯨に移行しても古式捕鯨時代からの伝統と技術により、捕鯨事業の船員や作業員を多く輩出し、南氷洋で活躍していた。



鯨を引き上げるカグラサン(ろくろ場)の1つが柏浦に残る。ろくろを回す動きが神楽舞に似ているのでカグラサンと呼ばれた

各地から
福江島にやってきた
鯨捕りの集団

福江島

長崎県五島市

面積：326.36km²
人口：33,068人
(男15,656、女17,068)
世帯：18,046世帯
2021年10月末日現在

紀州太地で和田(後の太地)寛右衛門頼治が鯨の網掛け突き取り法を考案したのが、1677(延宝5)年のこと。この方法は、高知県室戸や西海地方にも伝播している。

1690(元禄3)年に黒瀬に建てられた「鯨鯨の碑」に紀州湯浅浦藤新右工門建立とあるように、紀州から鯨を捕りに来ていた集団がいたことがわかる。

1769(明和6)年、三井楽柏浦では、呼子(現在の佐賀県唐津市)の鯨組主中尾家の支配人人生島仁左衛門を招いた。五島藩は、仁左衛門に10人扶持中小百姓格の身分を与えて柏浦で捕鯨をさせた。呼子から移住してきた一団を「ヨコオグン」と呼んでいるが、ヨブコ群が転訛したものと思われる。



日本水産捕鯨跡地に煙突と水揚げ場が残る

近代捕鯨の跡地を訪ねて

1955(昭和30)年、大洋漁業は荒川に捕鯨基地を開設。初年度ナガスクジラ256頭と幸先が良かったが、翌年からは他社の参入などで競争が激化し、5年後には撤退した。

日本水産は、1956(昭和31)年に富江に拠点を持ったが、不漁のため14年後に閉鎖した。その後も福江島出身者が母船やキャッチャーボートの乗組員として参加、捕鯨業に貢献した。



富江町黒瀬にある鯨鯨の碑。浜辺にはもう1基、鯨の供養碑がある

島のシンボルは活火山の鬼岳です。守り抜かれたキリシタンの歴史と島に点在する教会、豊かな海の恵み、湧水を利用した焼酎など魅力がいっぱい。ぜひ島にお出かけください。



五島市観光協会事務局長 今村安規子さん

三井楽柏のカグラサン

山見
クロヨ(メジナ)の追い込み漁が盛んな三井楽・高崎。メジナが来ると透明な海が黒くなるのを見張る。かつては鯨も見えていたという

岐宿のロクロ場跡
かつて畑の向こうが砂浜だった

堂崎教会
島に11ある教会のひとつは、五島のキリスト教布教の拠点だった

菊谷造船所(岐宿漁港)
荒川の捕鯨会社から鯨の水揚げに使っていたウインチを50年前に譲り受けた。現役で船の陸揚げに使用

空港へ向かう途中から福江港を望む

三井楽教会資料館
1773(安永2)年に大村藩から逃れて三井楽に移住してきた人たちは農業に従事し、冬は鯨加工の季節労働者として働いた。捕鯨の道具も展示

三井楽で見かけた牛は五島牛?

魚津ヶ崎(ぎょうがさき)
遣唐使船の修理や風待ちをした

福江港ターミナル

五島観光歴史資料館
福江城址内にあり五島の歴史を紹介、一角に捕鯨関連の展示も。
☎0959-74-2300 9:00~17:00(6月~9月は18:00まで、入館は閉館の30分前まで) 年末年始(12/29~1/3) 大人300円、小中高生100円

長崎港行や中通島の奈良尾港行の高速船が出ている

荒川のロクロ場跡で、湾の向こうが荒川温泉

昭和30年代に捕獲したナガスクジラの頭骨

黒瀬のロクロ場跡
今は埋め立てられたが坂道の下が砂浜で、この坂道を利用して鯨を引き上げていた

五島福江空港

福江城址跡
五島藩31代盛徳が築城した福江城は廃藩置県で8年後に解体、跡地は県立五島高校になり、蹴出門が残っている

昭和時代には、鯨の水揚げを見る観光客で賑わっていた荒川温泉の家並み

丸子
土地の漁師さんの話では、丸子の崖下にナガスクジラの骨が散乱している。50年以上もそのままという

長崎行や福岡行の便がある

大宝寺
西の高野山と呼ばれ、鯨がお参りする「紋九郎鯨」の伝説が残る

黒瀬鯨鯨の碑

日本水産捕鯨跡地(富江)
鯨を引き上げた場所が残る



冷凍ケースには湯引用塩
鯨200g ¥1000や刺身用
赤肉300g ¥3000、茹で
うね50g ¥1000などが

五島の海産物ならおまかせ

五島海産物販売 丸宗

ウニ、ミズイカ、魚の一夜干しなど、五島産の海産物を販売する。鯨肉も扱っているが地元客がほとんどだとか。お正月やお盆に欠かさない鯨は、中元や歳暮の時期になると島外の親戚や子どもたちに送る人が多いそうだ。



〒五島市中央町6-14
☎0959-72-2007
🕒8:00~18:30
🏠不定休
📍福江港から徒歩9分 🅐商店街Pあり



鯨のくわ焼き ¥2500(上)、鯨の煮付け ¥2000(右)、
湯かけくじら ¥700(左)

くわ焼きはすき焼きに似て、甘辛い味で鯨独特のくせを消し、食べやすくしている。煮付けは骨の周りの肉と皮付の肉を使用。湯かけくじらは酢味噌で食べることが多いが、五島ではワサビ醤油で食べるのが一般的だとか

定置網の朝捕り魚が自慢

旬鮮喰間 一登

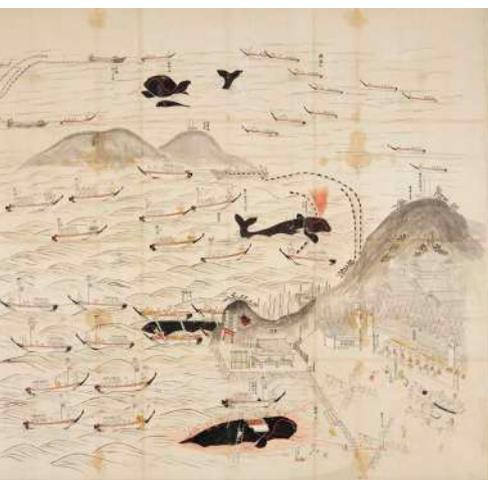
かつて大阪の高級日本料理店で板長を務め、数々の料理人を育てた山内さんの店。7年前に出身地の福江に戻り、早朝から長手漁港にある叔父の定置網を手伝っている。朝捕りの魚のほか、定置網に鯨がかかると、鯨料理を提供するそうだ。



〒五島市福江町12-1
☎0959-74-6050
🕒17:30~21:30(LO)
🏠不定休
📍福江港から徒歩15分 🅐なし



シックな外観と色鮮やかな大漁旗がある店内



江戸時代初期から有川では、江口甚左衛門正明が紀州古座の三郎太郎とともに鯨突き組を運営。有川湾南側の有川村に10組、北側の魚目村に8組の鯨組があったという。

「肥州五嶋浦鯨突之絵図」(鯨賓館ミュージアム蔵)有川の鯨組江口家の紋が見られる

福江藩と富江藩 海境問題で 江戸幕府に3回直訴

捕鯨で栄えた町なので、島の玄関口の一つの有川港には鯨のモニュメントが。島を代表する食べ物、鯨、五島うどん、かんころ餅があります。雄大な自然を楽しんでください。

新上五島町観光物産協会
係長
前田喜嗣さん



中通島

長崎県南松浦郡新上五島町

面積：168.31km²
人口：16,635人
(男7,893、女8,742)
世帯：8,823世帯
2021年10月末日現在

1661(寛文元年、福江藩(五島藩)から分かれ、富江藩が新たに生まれたことから有川湾を挟んで海境問題が起った。富江藩は有川からの入漁労を一切禁止し、大村藩の深澤儀太夫に15年間の捕鯨権を与えた。その後有川村と魚目村の争論が絶えず、有川村の困窮を目前にした甚右衛門正利は、江戸直訴を3度行なった。1689(元禄2年)と翌年の2度の裁許で有川の海を取り戻した。

有川では近代捕鯨従事者を多数輩出している。1645(正保2)年に創建した、専念寺の開基は江口甚左衛門正明による。以来、この寺院は江口家の菩提寺である。江口廣隆さんの父君も、日本水産女川事業場の場長として勤務していたそうだ。母船式捕鯨でも母船の解剖員

として有川出身者が多数を占めていた。最盛期には、600から800名の有川出身者が南氷洋捕鯨に参加したと言われている。調査捕鯨時代、また現在行われている商業捕鯨でも、有川出身者の多くが製造部員として参加している。

江口家13代目の江口廣隆さん

納屋場跡
1884(明治17)年まで有川鯨組が捕鯨基地とした場所。その後1911(明治44)年に五島捕鯨が休業するまで基地として活用した。魚目の鯨組主湯川家から呼子の中尾家の養子になったのが2代目の甚六

鯨が出迎えてくれる

鯨骨の鳥居の海童神社

鯨賓館ミュージアム
有川港ターミナル

事代主神社
有川・魚目の海境論争に提出するための「魚目浦絵図」を所有していた

正利翁社
江戸直訴を3度行なった甚右衛門を祀る社で、右に江口甚右衛門正利像がある

1678(延宝6)年に深澤儀太夫の鯨組が納屋場を置いた丸尾。「鯨百本供養塔」は、魚目の鯨組主中野太郎兵衛が1744(寛保4)年に建立。供養塔脇の現在の様子

鯨供養碑
(鯨見山展望台)
1712(正徳2)年、江口甚右衛門正利が建立

鯨見山展望台からの眺め。左下にかつての捕鯨基地を望む

鯨見山展望台

海難事故者の祠
事故で亡くなった人々を今も懇ろに弔っている。展望台の登り口にある

井財天宮(めーざいてんぐう)
江口甚右衛門正利が江戸に向かった帰りに鎌倉井財天に寄り、海境問題解決を祈願し成就したため、1691(元禄4)年に有川鯨組の守り神として祀った

自然風化でできたかぶと岩

原氏父子の像
原真一は有川生まれで、1908(明治41)年大阪で東洋捕鯨を設立。翌年、不振に陥った五島捕鯨を吸収し、失業する有川の従業員を全員雇用。息子の萬一郎とともに村民を救援

専念寺
江口家の菩提寺で一族が眠る

専念寺



名産五島うどんがお値頃で

うどん茶屋 遊麺三味

五島手延うどん協同組合が運営している店。コシが強く、滑らかな喉ごしのうどん、島の椿油を使っているのが特徴だ。鯨とのセットメニューもあり、名産2品が食べられると人気がある。カレー風味の鯨スティック1本120円もある。

1 うどんの里にある店 2 店内では五島うどんの作り方を紹介



住 南松浦郡新上五島町有川郷428-31
☎ 0959-42-0680
時 11:00~14:00(LO)
休 不定
交 有川港から徒歩3分 Pあり



3 うどんの製法をフィギュアを使って紹介している
4 鯨串定食¥1000
鯨の赤身肉とゴボウの串揚げに、五島うどんのミニサイズ付きでボリュームあり



中通島の捕鯨史がわかる

鯨賓館ミュージアム

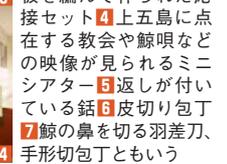
有川と魚目の古式捕鯨から近代捕鯨まで、わかりやすく展示している博物館。ほかに世界文化遺産「頭ヶ島の集落」、国指定重要文化財の教会建築に携わった建築家鉄川與助などを紹介。新上五島町の歴史が学べるので、観光前に立ち寄りたい。



住 南松浦郡新上五島町有川郷578-36
☎ 0959-42-0180
時 9:00~17:00
休 年末年始(12/29~1/3)
¥ 大人210円、小中学生100円
交 有川港からすぐ Pあり



1 有川港多目的ターミナル内にあり、頭上にはクロミンククジラの実物大の模型と全身骨格標本が2 展示室3 ヒゲ板を編んで作られた応接セット4 上五島に点在する教会や鯨喰などの映像が見られるミニシアター5 返しが付いている鋸6 皮切り包丁7 鯨の鼻を切る羽差刀、手形切包丁ともいう



鯨の旨さを最大に生かす

和食処 味彩

1989(平成元)年にオープンした主人の石田さんは有川出身。奥さんと二人で店を切り盛りする。義祖父は捕鯨船に乗っていたとのこと。普段から食べていた鯨料理を提供。鯨料理のメニューも充実し、冠婚葬祭にも利用されている。



住 南松浦郡新上五島町有川郷2610-3
☎ 0959-42-3765
時 11:30~13:30(LO)、
17:00~21:20(LO)
休 水曜、第3火曜
交 有川港から徒歩5分 Pあり



海岸通りから1本入った店



鯨のなます¥340
鯨の背中部分の皮が入り、コクがあるなますは、たまにメニューにのことも

鯨うどん¥940
鯨だしをベースに鯨のダシをプラスし、胸と脇腹の皮が入ったうどん



1 この一角が華やぎ、期待感いっぱい
2 農家直売り野菜と鯨のサラダ¥2000
サラダにするとまた違った味わいに

有川の夜をホットに楽しむ

PUB GEORGE'S

「捕鯨船に乗っていた父を晴海まで家族で出迎えに行ったんですよ」という、オーナーシェフの井内さん。基本はイタリアンだが和風もありの無国籍料理。メニューは25年前と変わらず、ピザ生地も手作り。鯨が捕れると鯨料理も提供する。



住 南松浦郡新上五島町有川郷2599-1
☎ 0959-42-2686
時 18:00~翌1:00
休 日曜
交 有川港から徒歩6分 Pなし



店内を眺めているだけでも楽しい店。バーボンやスコッチなども充実している

上五島の物産が勢ぞろい

新上五島町観光物産センター

五島うどんの里にあるみやげ専門店。人気上位3は五島手延べうどん、かんころ餅、釜炊きの海水塩だとか。種類が多く、選ぶのに迷いそうだ。郷土食の鯨肉も人気で専門店が隣接。2005(平成17)年に開設以来、地元を含め多くの人々が訪れる。



住 南松浦郡新上五島町有川郷428-31
☎ 0959-42-0964
時 8:30~17:00 休なし
交 有川港から徒歩3分 Pあり

五島手延べうどんの製麺所と製塩所はそれぞれ20以上もあるという激戦区の島。食べ比べも楽しいかも。うどんに欠かせないあごだしもそろっているので、迷ったら店の人に相談しよう

郷土菓子のかんころ餅もたくさんそろう



刺身用の他、鯨のさまざまな部位がそろい、郷土料理の鯨のなます1P540円、鯨コロッセ324円などの冷食品も

鯨肉販売 53年の専門店

前田商店

「昭和30年代、有川では7、800人が捕鯨に関わっていた」という主人の前田さん。刺身用から小腸や胃袋などの茹でものや鯨ボール、鯨カツなど種類が豊富だ。鯨食文化普及のためイベントを開催、アツアツの鯨串カツ1本150円で販売。



住 南松浦郡新上五島町有川郷428-31
☎ 0959-42-3100
時 9:00~16:30
休 休なし 交 有川港から徒歩3分 Pあり



五島うどんの里にあり、おみやげに宅配する人が多い



宇久島

長崎県佐世保市宇久町

面積：25km²
 人口：1,932人
 (男903、女1,029)
 世帯：1,205世帯
 2021年9月末日現在

「海士」が
 宇久の鯨捕りは
 羽差として活躍した

平安時代末期、宇久島に渡った平清盛の弟、家盛(五島藩の始祖)は鮑採りに助けられ、その礼に鮑採りたちに「海士」の位を授与。さらに五島一円におけ

五島列島最北端の島で、宇久ブルーと称される透明な海と豊かな自然が人々を魅了する。かまこ餅を初めて販売したのは宇久島なんです。祝事に鯨は欠かせません。



宇久町観光協会
 事務局長
 檜垣 督さん

る鮑漁の永久権を与え、1951(昭和26)年まで代々受け継がれた歴史がある。
 宇久島の捕鯨は、1680(延宝8)年に山田茂兵衛が鯨網組を組織したことに始まる。年に20から30頭の鯨を捕ったとされるが、鯨の背に馬乗りになっても、海に長く潜っていたられる海士が羽差として起用された。浜方地区(堀川、向江、佐賀里、旦の上)の海士と捕鯨の歴史を知ることができる。

五島列島に伝わる「紋九郎くじら」の話

三代目山田紋九郎が鯨組主になり栄えていたが、親子の鯨が夢に現れ「これから親子で福江島の大宝寺にお参りする途中です。お参りが済むまで捕らないでほしい」と懇願した。

紋九郎は水夫たちにもその話をしたが、不漁が続く中で山見からの知らせで久々に船に飛び乗った。天候の悪化で72名の水夫たちが遭難。この事故により鯨組は解散に追い込まれたとされている。鯨の大宝寺詣の話は福江島にも伝えられている。72名が遭難したのは、1716(正徳6)年のことであった。

命中した話は鯨の力で曲がり、抜けにくくなるよう軟鉄製

1956~7年にかけて、山崎兵市が捕鯨砲手として優勝した記念レリーフ

宇久島資料館
 島の歴史や文化、捕鯨関係の資料を展示。☎0959-57-3311、0959-57-2607(宇久地区コミュニティセンター) / 9:00~17:00 / 土日のみ開館

松原墓地内の山田家の墓地。山田紋九郎の文字が見える

松原墓地にある山崎家墓地内の鯨魂供養塔(左)と柄本家墓地内の鯨魂供養塔(右)

南水洋や北水洋で使われた75mm捕鯨砲

東光寺
 平家盛(後の宇久氏)が眠る、山門は平戸瓦を使用。山田組が奉納した閻魔像と十王像3体が残る。鯨魂供養塔があり、南水洋から戻った捕鯨船員が供養した

石灯籠(天満宮)
 1933(昭和8)年に東洋捕鯨乗組員が寄進

神島神社の灯籠の上に鯨が。狛犬のように左は口を閉じ、右は開いている。1797(寛政9)年、6代山田茂右衛門が建立した若宮神社境内にある。一帯は松原遺跡で発掘すると今でも鯨の骨が出てくるそうだ

妙蓮寺の七十二人様の供養碑。山田組の文字が見える

宇久平港発着の高速船

かつちゃん
 島で鯨が食べられる店。ルウにも鯨肉がたっぷり、厚切りの鯨カツが乗った鯨カツカレー1150円。☎0959-43-4150 / 11:30~14:00、17:30~21:00、日曜休

宇久平地区の全景、海岸通りはかつて砂浜で浜蔵(はまんくら)や納屋場が建っていた

お籠り堂
 屋久蘇恵比寿宮(旦ノ上公民館)は捕鯨の留守を家族がこもって祈っていた場所

八龍宮(はっしろうさま)
 五島藩宇久島と平戸藩小値賀島が鯨山見の領有権でもめた黒母島の祭神

長崎鼻遺跡で出土した鯨底土器

1000年前の鯨骨

鯨瀬ターミナル(佐世保)
 有川(中通島)、小値賀島、宇久島への高速船の発着所

浜方ふれあい館
 旧缶詰工場を利用した資料館で、鯨肉も販売。☎0959-57-2378 / 9:00~16:00 / 土日、祝日のみ開館

堀川墓地
 堀川墓地の捕鯨砲手松本由蔵が建てた鯨千頭供養碑(松本家墓地内)と紋九郎鯨七十二人様供養墓

鯨魂供養塔
 堀川墓地にある浅井組(後の深澤組)が建てた

蘇恵比寿
 堀川の捕鯨漁の大漁と航海安全を願って建立。この地区は羽差が多く住んだところで、昭和時代は捕鯨船乗組員を多く輩出

長崎鼻遺跡

平家盛公上陸地

A



聖母宮
1西門は、1592(天正20)年に加藤清正よって建立2裏門辺りの狛犬や石灯籠は、土肥家が寄進した3平戸藩主と4代土肥市兵衛が寄進した本殿は、杵岐に無いケヤキが使われている

荒神社

鯨組正村原田家の屋敷神。原田家は捕鯨のほかに勝本浦の振興にも尽力



勝本浦の家並み。棧格子の家が続く



鯨組原田家の鯨供養塔
平戸藩主から末永く鯨が捕れるよう「永取」の姓を賜った



能満寺

土肥家の菩提寺で、本堂と梵鐘は土肥家が寄進。高台にあり、勝本の町が見下ろせる。2021年に完成した手水鉢の上にはイルカが



本宮八幡神社
鯨組土肥家が寄進した灯籠がある



国民宿舎吉岐島荘
源泉掛流しの湯元温泉にあり、漁火プランには吉岐の郷土料理湯かけくじらが付く。☎09 20-43-0124

箱崎八幡神社
紀州熊野の鯨組日高の名がある石灯籠がある



男嶽神社

恵比須浦で鯨が捕れると、鯨の目玉片方を奉納。かつて神社の下まで海だった。海に鯨が現れると石の上に乗って知らせたという



A

B

吉岐島

鬼屋窪古墳

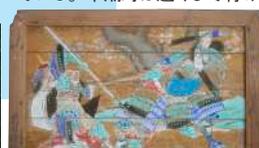
郷ノ浦港



鯨石
鯨組の羽差たちが大漁祈願した



はらぼげ地蔵
鯨を供養するため、遭難した海女の冥福を祈るためと伝えられている。干潮時は近くまで行ける



興神社

社内には前目鯨組と書かれた絵馬が

勝本町



勝本浦に沿って町並みが広がる



町の入口にはイルカが乗った時計台が

御茶屋敷跡

アホウ堀

鯨組4代土肥市兵衛が築いた大豪邸跡に残る高さ7mの石堀



八大龍王神社

鯨組土肥家に祀られた神社。かつて祠の脇には鯨の骨もあったそう



西日本最古の捕鯨場だった恵比須浦。1478(文明10)年頃、紀州熊野から来た日高吉弥によって捕鯨が始まった。1624(寛永元)年、大村藩深澤儀太夫がこの浦に鯨組を置いた。鯨が捕れると蛭子尊に鯨の目玉の片方を奉納した



太神宮

1846(弘化3)年、生月島の益富組が奉納した石灯籠



貴船明神前の旧倉光家

貴船明神

芦辺港ターミナル

金刀比羅神社

境内には、倉光藤太ら3人が寄進した石灯籠があるという



住吉神社

鯨組篠崎家の信仰が厚く、境内裏に篠崎与右エ門と刻まれた石のお神酒が



B

鯨供養塔
恵比須浦を見下ろす高台にある



事代主神社

恵美須漁港

太神宮

芦辺町

貴船明神



貴船明神には鯨組倉光家が奉納した石灯籠が

